

高次脳機能障害のある方への 作業活動の支援

特定非営利活動法人いきいき練馬

ウェルネス アンド ワークス

管理者 久保美希子

本日の内容

1. ウェルネス アンド ワークスの概要
2. 高次脳機能障害のある方の受入
3. 高次脳機能障害のある方の
作業活動の様子
4. 作業活動への支援について
5. まとめ～地域の作業所としてできること

1. ウェルネス アンド ワークスの概要

- 就労継続支援B型事業所(平成21年度4月～)

- NPO法人いきいき練馬が設置運営

- 脳血管障害等の中途障害者が主たる対象

- 利用定員 20名(現員20名)

- 職員 管理者兼サービス管理責任者1名
(常勤)

職業指導員2名(常勤)

生活支援員1名(常勤)

他に看護師1名と統括管理部長1名

(共に非常勤)

- 作業活動は近隣企業からの下請受注作業
 - 菓子箱の組立
 - ダイレクトメール封入
 - 食品包装資材梱包
 - その他 手先の仕事
- 工賃は一人当たり月13,000円～33,000円程度

- 平成5年に無認可小規模作業所として開所
(施設名は「いきいき工房」)
- 脳血管障害等の中途障害者の社会参加の場、
働く場として

- 平成7年4月に久保入職
- 当時の職員体制
→ 施設長1名 支援員2名(うち1名はパート職員)
- 当時の利用者(7名)障害状況
→ 片麻痺 失語症 記憶障害

2. 高次脳機能障害のある方の 受 入

平成7年

失語症と記憶障害のあるHさん(当時48歳)

- 名詞が出てこない(人の名前・地名)
- 他の人から言われたことがすぐには理解できない
- やっていたことをすぐには思いだせない
- 怒りっぽい
- 自己中心的

平成9年

高次脳機能障害（記憶障害）が顕著な方からの利用希望があり実習を行った。

Tさん：当時40歳。くも膜下出血。

「1分前のことも覚えていられない」と家族から報告を受けていた。

Tさんの実習での出来事

実習4日目にステンシルの作業をしている最中に、ふざけた態度を取り、職員から注意される。それに対して怒りをあらわにする。



職員は初めて高次脳機能障害が複雑な障害であることを実感。職員の障害に対する理解促進と受入体制を整えることが課題となった。

現在の利用者の障害状況

片麻痺		体幹機能			
右麻痺	左麻痺	障害			
10名	2名	3名			
高次脳機能障害					
失語症	記憶	注意	遂行機能	行動感情	半側空間無視
10名	6名	3名	2名	3名	1名

* 平成25年5月現在

* 重複有

* 障害者手帳に基づいて分類

* 高次脳機能障害については医師の診断書、関係機関からの情報を含む

3. 高次脳機能障害のある方の 作業活動の様子

①Aさん(64歳 男性)

- 交通事故による頭部外傷(40代で受障)
- 記憶障害・遂行機能障害が顕著
- 受障後、病院、地域の心身障害者センター、
等でリハビリを受けた後、平成12年から
当事業所の利用を開始

Aさんの作業の様子①

- 主に一つの工程の作業をお願いする。
- 同じことの繰り返しは得意。ペースも一定で早い。
- 自分が手がけたものを確認しながら、次のものを手がける。

Aさん作業時の様子②

- 一度間違えると修正がききにくい。
- 職員が間違いを指摘すると険しい表情になる。
- Aさんが間違えていると周りの人がさりげなく職員に教えてくれる。

Aさんへの対応

- 「違います」という言葉は使わず、「これはこうしてくださいね」と改めて見本を示す。
- 目の前から仕上げたものとすべて回収してしまうと見本がなくなり、迷うことがある。
必ず一部は残して回収する。
- 他の人にも「Aさんは覚えておくことが苦手です」と伝えておく。すると中には気にかけてくれる人もいる。

②Bさん(女性 53歳)

- くも膜下出血(20代と40代で2回発症)
- 記憶障害が顕著
- 1回目の発症後は後遺症は残らなかったが、2回目の発症後に記憶障害が顕著になった。
- 退院後は、通院でのリハビリや介護保険のデイケア利用を経て、平成22年から当事業所の利用を開始

Bさんの作業の様子①

- 手先は器用でほとどの工程もできる。
- 数の勘定が得意。
- ものすごくペースが速い。
(気分が乗らない様子の方はペースが上がらないこともある)

Bさんの作業の様子②

- ・同じ作業の繰り返しでも「どうするんだっけ？」
「これでいいの？」と尋ねる。
- ・他の人と冗談で言い合いをしていたのが、
いつの間にか本気で怒ってしまう。
- ・話していると興奮して話が止まらなくなるという
場面もあり、他の人からうるさいと思われるしまう
ことがある。

Bさんへの対応

- 尋ねられれば何度でも伝える。「大丈夫です。あっていますよ」という声かけも頻繁にする。
- Bさんが落ち着いて作業に取り組めるような席の配置を考える。

4. 作業活動への支援について

職員が気を付けていること①

- 「前にもやったでしょう」「前にも伝えたでしょう」は言わない。同じことでも何度でも繰り返し繰り返し伝える。
- 「間違っています」というような否定的な印象を与える言葉は使わない。

職員が気を付けていること②

- 落ち着いた雰囲気の中で、ご本人たちが安心した気持ちで作業ができるようにする。
- ご本人たちの中に「間違えてしまうかもしれない」「忘れてしまうかもしれない」という不安があることを踏まえておく。
- 責任のある仕事をしていく中で時に間違いを指摘して、その場ですぐに修正してもらうこともある。そうした時に関係を壊さないためにも、普段から信頼関係を築いておくことも大切である。

5. まとめ

【地域の作業所としてできること】

- ありのままの姿を受け止める。「今のあなた
のままでできることをしていきましょう」と
いう気持ちで共に歩んでいく。
- 長い年月を共に過ごしていく中で、変化の様子を
見守っていく。良い変化が見られれば共に喜び、
何か問題が起これば、それに気づき、家族や
関係機関にも伝え、共に対応していく。